

浴場に蛾(が)幼虫が侵入

平成21年10月中旬に公衆浴場の管理人から「浴場の玄関や脱衣場の床面に数センチメートルの蛾幼虫がいる。家の中で発生しているのではないか」との相談です。公衆浴場という公共の施設であることから、しかもチャドクガのような有害性の蛾幼虫ならば、衣服の着脱によって、毒針毛による健康被害が起こることも考えられ、被害を未然に防ぐという観点から保健所と合同で調査を実施することにしました。

現場調査を実施したところ、浴場の玄関には、数匹の蛾幼虫がはっていました。蛾幼虫の種類は、ヨトウガでした。また、付近の空き地に雑草が繁茂しており、その葉上に多数のヨトウガ幼虫を見つけることができました。「ヨトウガは、毒針毛や毒棘(きょく)を持ちません。皮膚などへの健康被害は、起こすことはありません。対策として発生源の雑草に殺虫剤散布することも一つの方法ですが、健康被害がないことから、幼虫を見つけたときにつまんで捕獲する程度の方法で十分です」と説明しました。

ヨトウガ

ヨトウガはヤガ科のグループです。漢字で書くと夜蛾と書くのでしょうか。このグループの幼虫は、このような名前のおと、夜間に活動する種類が多くいます。さらに、ヨトウガは、夜に盗む蛾という意味です。盗むのは、野菜です。

我が家の家庭菜園の強敵

これからいよいよ冬野菜がおいしい季節です。我が家の家庭菜園でも、少しずつですが、白菜、キャベツ、ブロッコリー、ほうれん草などを育てています。10月、11月は、こうした冬野菜がぐんぐん育つ時期です。この時期に悪さをするのがヨトウガです。若いうちの幼虫は、野菜の葉裏や葉と葉の間に潜んでいます。無農薬で育てていますので、幼虫を割り箸でつまみ出し、駆除しています。ところが、11月にもなると、野菜は食べられ、糞(ふん)も沢山見つかるのですが、野菜には、幼虫が見つかりません。ヨトウガの食害の特徴です。夜間に食害し、昼間は土の中に潜っているのです。畑土をよく観察をすると、少し盛り上がっているようなところが見つかります。そこを掘ると、ころころに太ったヨトウガの幼虫が出てきます。こうした習性からヨトウガと呼ばれています。

食草

蛾幼虫の多くは、種類ごとに餌にする草木の種類が決まっている場合があります。絹を作り出すカイコガの食葉は、桑の葉であることは非常に有名です。ところがヨトウガは、幅広い種類の草を食草としています。今回の事例では、浴場周辺の雑草でした。

ヨトウガ幼虫の特徴

サナギになる前の幼虫には、胸部や腹部に黒色で八の字のような模様があります。分かりやすい特徴です。頭部は、黄褐色で独特の褐色の模様があること、腹脚の鉤(かぎ)爪は、単列半環状であること、腹部の末端節は、少し角張ることなどの特徴があります。ところが若い幼虫の体色は、薄緑色で成熟幼虫とは全く異なります。同じ種類とは思えないほどです。若い幼虫は、昼間に土中に潜むことはなく、野菜などの表面や間に生息しています。そのため、薄緑色の体色は、野菜などの色に似せた保護色としての役割を果たしているのかもしれない。



上から見たヨトウガ幼虫



横から見たヨトウガ幼虫



特徴的な頭部の模様



腹脚の鉤爪



ヨトウガの被害